

作成日 2026 年 6 月 2 日

食道裂孔ヘルニア手術を受けられた方に 後向き観察研究調査協力の御願い

南大阪病院外科・消化器外科では、食道裂孔ヘルニア（胃の一部が胸の中に飛び出す病気）のより正確で負担の少ない診断方法を確立するため、過去の診療データを用いた臨床研究を実施しています。

研究課題名

新規症状スコア「E スケール（Epigastric and Esophageal Symptom Scale：EESS）」を用いた食道裂孔ヘルニアの診断精度ならびに手術適応の判断に関する検討：開発・検証

研究の目的

新しく開発した問診票（E スケール）が、食道裂孔ヘルニアの内視鏡検査の診断結果を予測できるかを検討することが目的です。

研究の方法・対象

対象：2026 年 8 月 28 日以前に、外科・消化器外科にて食道裂孔ヘルニアの内視鏡検査を受けられた方。

方法：過去のカルテ情報から必要なデータを抽出し、解析を行う「後向き解析」を実施します。

利用する情報の項目

以下の情報を解析に使用します。

- 年齢、性別、既往歴
- レントゲン検査、内視鏡検査結果、バリウム造影、CT 検査、24 時間 pH モニタリング検査
- E スケール問診票の全回答項目
- 紹介状（診療情報提供書）に記載された経過、薬物治療歴

情報の管理・公開方法

本研究では、氏名や住所などの個人情報を、特定の個人を識別できないよう加工した連結可能匿名化データとして取り扱います。令和 5 年改正指針に基づき、個人情報の保護には万全を期しています。研究結果は学会や論文で公表されますが、個人が特定される情報は一切含まれません。

拒否の機会および連絡先

ご自身のデータを本研究に使用してほしくない場合は、いつでも下記の窓口までご連絡ください。拒否された場合でも、診療上の不利益を受けることは一切ありません。

【問い合わせ及び研究への利用を拒否する場合の連絡先】

社会医療法人景岳会 南大阪病院 外科・消化器外科 竹村 雅至

〒559-0112 大阪市住之江区東加賀屋 1 丁目 18-18

Tel: 06-6685-0221（代）